



天内会長と楽しそうにムックリを練習している様子

TOPIC

1

白糖のアイヌ文化を学ぶ

8
21

ウレシパチセで修学旅行生を受け入れ

白糖アイヌ協会（天内重樹会長）は、修学旅行で訪れた斜里町立知床ウトロ学校の6年生10人をウレシパチセで受け入れました。

この日は、はじめてに町が制作した国際放送番組を上映。その後、ムックリ体験や古式舞踊の披露・体験、天内会長による儀式や祭具の紹介などが行われました。

参加した児童は「アイヌ文化には、儀式などに深い意味があることを学ぶことができた。ムックリや輪踊りがとても楽しかった」と話していました。

TOPIC

2

半年ぶりの読み聞かせに 子どもたちも笑顔

8

22

ふれあい児童館で絵本の読み聞かせ

新型コロナウイルス感染症の影響で開催を自粛していた「よみきかせの会★星の子（鍛冶恵子会長）」による絵本の読み聞かせが、半年ぶりに再開しました。

読み聞かせは、毎月公民館図書室とふれあい児童館で行われています。

ふれあい児童館では、鍛冶会長がふるさと絵本「ぼくはたいようのて」と「スイミー」の2冊を朗読すると、読み聞かせの再開を楽しみにしていた7人の児童から大きな拍手が贈られました。



読み聞かせを楽しむ児童

TOPIC

3

農業や酪農について考える

8
22

酪農学園大学と意見交換会

「町の農業を考える会」と酪農学園大学との意見交換会が5年ぶりに酪農研修センターで開かれました。

同大学の高橋俊彦教授が釧路地区農業共済組合西部事業センター長を務めていた縁で、2015年に初めて開催されました。今回は高橋教授と学生11人が参加。学生が各自研究発表をした後、意見交換が行われました。

葛巻勇哉さんは「白糖は漁業や酪農、農業がそろっており、金銭面での支援も手厚いので、その良さをもっと発信していけば良いのでは」と話していました。



音別町出身の笹野大輔さん（4年）による研究発表の様子。